

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

能ヶ谷西緑地だより

2026年11月1日号 247号 能ヶ谷西緑地・樹の会

【11月の予定】

◆11月14日（土）（雨天翌日）

・南斜面 梅の剪定

◆11月28日（土）（雨天翌日）

・小田急住宅下 草刈り

* 9:00 現地集合（9:00～11:30）

◆11月7日（土） 10:00～12:00

・やまゆ連・手作りカフェ

平和台集会所

問合せ：伊藤（735-8623）

どなたでも参加自由です。



※※※※※※

緑地だより

※※※※※※

10月10日（土）晴 参加者 7名

久々の晴です。花広場の草刈り作業を行いました。メインは、広場を気持ち良く歩き回る通路の草刈りです。1ヶ月前にも行いましたが、よく茂っていました。次に、ハーブ畑、シュウメイギク、ヒマワリ畑などです。今年は記録的な長雨とかで、草の生育がすばらしく、シュウメイギクの花壇では白い花が見えないほどです。

草刈りしながらいつも思うことがあります。ほとんどの草の名前がわかりません。作業が終われば、わからない草のことも忘れていきます。残念！

草刈り後、通路の一部に、わらを敷きました。

（伊藤）



シュウメイギク

10月24日（土）小雨 参加者3名

小雨が降っており中止か判断に迷ったが、男性3名が集まった。Sさんと私は翌日に作業が順延となると用事で出席できないので作業をすることした。

【緑地に生える】ジンジャー・リリー



鳥に似た優美な花と甘い芳香を放つショウガ科の多年草です。1日でしぼむ「1日花」ですが、穂状にたくさんの花が咲くため長く楽しめます。

葉や株の姿が生姜（ジンジャー）に似ていて花が百合（リリー）に似ていることから名付けられました。

和名は「花縮紗」（ハナシュクシャ）英語では「バタフライジンジャー」とも

呼ばれています。

（長谷部）

水曜日の強風で桜広場の桜の枝が折れ、気が付いた近所の方が市に連絡。すぐに対応していただき、落枝はまとめてあった。老木の落枝事故が各地で報道されており市も注意しているのだろう。桜広場は雑草が茂っていたので3名で草刈りを行う。

草刈り機で雑草が良く刈り取れないので力ずくで作業を行ったが、後で調べると回転歯の取り付けを間違え、回転方向が逆であった。一部に刈残した所もあったが、小雨が続くので早めに作業を終了した。

（藤井）



枝の折れたサクラ

10月25日（日） 曇 参加者 5名

昨日の作業日が雨で今日になった。前日の雨の中、3名の男性軍が刈払機で桜広場の下草を刈っておいてくれたおかげで、今日の作業は、刈った草を集める、残った草を鎌で刈り取るなど、少人数ながら、作業は捗り、桜広場はさっぱりして気持ちがいい。問題は、背の高い桜の木が一本、枯れかけているように見えること。市に伐採をお願いしようかと相談する。

花広場では、ほとんどの葉っぱが喰われて茎だけすくくと伸びている百合がある。5～6枚残った葉を見ると、4cmほどの毛虫が2匹張り付いている。赤茶色の背中全体に白いトゲトゲが出ていて、まるでゴジラの背びれのような迫力。ルリタテハの幼虫だそうだが、美しい羽をもつ蝶の姿からは全く想像ができない。近くには大きな糞があるので、それを目当てにハエが止まっている。幼虫



イモカタバミ

はそれが目障りらしい。懸命に頭を動かして追い払おうとしている。しかし、ハエは我関せず。ここではどうも、すぐ飛び立てるハエに分があるらしい。小さな自然の中のスペクタクルな光景だ。

作業後は、輪飾りの相談に来てくれたSさん、休養中のKさんが持ってきてくれた手作り月餅で、美味しいお茶の時間を過ごして解散となった。

（上野）



ルリタテハの幼虫



ナナホシテントウ

【やまゆ連・手作りカフェ】

小物入れ作り

10月3日（土） 10：00～12：00

平和台集会所

連日の雨がやっと落ち着き秋らしくなった一日、今回は小物入れを作りました。

Sさんが作ったお手本は手のひらに乗るコロンとした形、両側を親指と人差し指でそっと押すと閉じていた部分が開いて中のものが取り出せます。

木の葉のような形に切った布2枚の間に牛乳パックを切った型紙と綿を入れて縫い合わせ、これを3つ作って組み合わせて縫い留めると出来上がりですが、細かい作業が思ったより難しく、皆真剣に取り組みましたが、途中でタイムアップとなりました。

残りは帰宅後各自で頑張りました。私の作品は、外側はモノトーンの手染めインド綿、内側は古い大島紬。中に入れる宝物はダイヤモンドの指輪…ではなくてドングリなんか似合うなあと思いました。

カフェメニュー：栗チョコ

（蔦谷）



インド綿の小物入れ、
入れるのはドングリ？



【緑地の樹】

ハナユズ

プロフィール：ミカン科ミカン属の常緑低木

花広場の奥に植わっているハナユズは、毎年緑地でお正月の輪飾りワークショップの時、飾りとして欠かせない縁起物です。今年もいっぱい実がなって、これからだんだん黄色くなっていくのが楽しみです。

ハナユズは、一オユズとも呼ばれます。これは、ホンユズが「ユズの大馬鹿18年」と言われるように実ができるまで長い時間がかかるのに対して、1年くらいで実ができるようになるからなのでしょう。ホンユズに比べると実は小さく香りも控えめですが、でもトゲも控えめなのがうれしいです、料理に使っても遜色ありません。

5月頃に咲く花は清楚で香り高く、心を癒やしてくれます。冬に稔る実は風邪から体を守ってくれます。ありがたい樹ですね。

(小川)



【緑地を楽しむ本】

『空で生きるトンボ』 月刊たくさんのふしぎ 2026年9月号

吉谷昭憲 文・写真・絵 福音館書店



今年は例年に比べて、トンボを数多く見かけたような気がします。空中をすいすいと飛ぶトンボとても気持ちよさそうに見えます。

トンボは何を食べているのでしょうか？口はしっかりしていて、むしゃむしゃとかみ砕きそうです。トンボは生きた

虫を捕らえて食べているのですね。

この本はトンボがいかにすごい昆虫であるかを教えてください。例えば、トンボのからだの形は、まるで飛行機のように。からだを急旋回させたり、空中停止（ホバリング）

もできるのです。トンボのはねは薄くて軽く、山と谷のようにデコボコが連続しながらカーブしています。そのため、とても丈夫な構造なのです。

トンボの眼は複眼ですが、大きくて、頭の大部分を占めています。この複眼のおかげで、周りを広く見渡すことができます。

トンボの脚は細いので、ほとんど歩けません。休む時につかまることはできます。飛ぶときには、脚を折りたたみます。このため空気抵抗を減らすことができると考えられます。

今度トンボを見かけたら、じっくり観察したいですね。

(齋藤好子)